

令和 2 年度
生活支援体制整備事業について

〔公開資料〕

令和 3 年度 第 2 回大阪市地域包括支援センター運営協議会

令和3年10月15日

大阪市福祉局 高齢者施策部地域包括ケア推進課

生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）について

1 目的

団塊の世代がすべて75歳以上となる平成37年（2025年）を見据え、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の構築が喫緊の課題となっている。

このような中、高齢化の進展に伴い、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加し、医療や介護サービス以外にも在宅生活を継続するための日常的な生活支援を必要とする者も増加しており、多様な生活支援サービスが利用できるような地域づくりが重要となっている。

このため、地域資源の把握・ネットワーク化やボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源・サービスの開発などを行う「生活支援コーディネーター」を配置し、多様な主体による生活支援・介護予防サービスの充実を図る。

2 実施内容

次の役割を担う生活支援コーディネーターを配置し、取組みを進める。

- (1) ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築
- (2) 地域資源・サービスの開発
- (3) 活動の場の発掘・開発
- (4) サービス実施情報等の周知

3 取組経過

- ・平成27年8月 3区にモデル配置（港区・鶴見区・住之江区）
- ・平成28年9月 5区に追加配置（此花区、東成区、生野区、東住吉区、平野区）
- ・平成29年10月 16区を追加し全区に【第1コーディネーター24人】配置

4 令和2年度実績

- (1) 地域資源・サービスの創出状況
別紙1のとおり
- (2) 地域ケア会議等への参加状況
別紙2のとおり

5 令和 3 年度の取組方針

- ・ 高齢者の社会参加を通じた生活支援サービスの充実がますます求められるため、新たなサービス・資源の創出につながる取組を推進する。
- ・ 引き続き効果的な事業運営ができるよう、委託事業者に事業計画書の提出を依頼し、本市で事業計画書のチェックを行う。事業実施後、四半期ごとに検証、見直しを行い、P D C A サイクルに沿った取組を推進する。
- ・ 日常生活圏域（66 圏域）への 2 層コーディネーターの配置。

大阪市における生活支援体制整備事業について

高齢化の進展に伴い、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加する中で、医療や介護サービス以外にも、在宅生活を継続するための日常的な生活支援を必要とする方も増加しており、行政サービスのみならず、民間企業、NPO、ボランティア、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な支援体制を構築することが必要

このため、地域資源の把握・ネットワーク化や地域資源・サービスの開発等のコーディネート機能を担う「生活支援コーディネーター」を配置し、多様な事業主体が参画する「協議体」を設置することにより、情報共有と連携強化を進めながら、生活支援・介護予防サービスの充実を進める
同時に、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するような社会参加を進め、生きがいや介護予防につなげる取組みも必要

生活支援コーディネーターの配置

ニーズと地域資源の把握・ネットワークの構築

・高齢者のニーズや地域資源の把握、多様な事業主体による支援体制づくり など

協議体の運営

地域資源・サービスの開発

・地域に不足するサービスの創出、介護予防に資する通いの場(「いきいき百歳体操」等)の創出、担い手の養成 など

活動の場の発掘・開発

・ニーズに応じたサービス提供できる場の確保、元気な高齢者が担い手として活動する場の確保 など

サービス実施情報等の周知

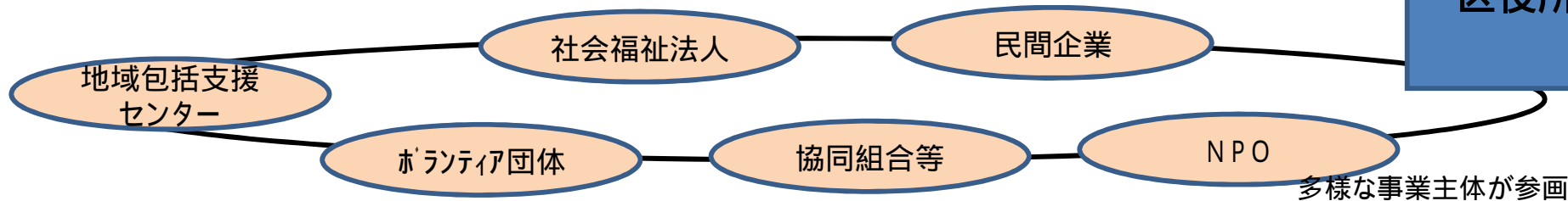
・サービス実施情報リストの作成、町会等のチラシへの掲載 など

連携

連携・協力

協議体の設置・運営

多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進



生活支援・介護予防の基盤整備に向けた取組

平成27年度 3区(港区・鶴見区・住之江区)でモデル実施
平成28年度 5区(此花区・東成区・生野区・東住吉区・平野区)を追加し、計8区で先行実施

平成29年10月から、全区で事業実施

生活支援体制整備事業における地域資源・サービスの創出について（令和2年度）

令和3年3月末時点

区名	開発数 (新規立ち上げ・既存資源の拡充)			主な具体的内容
	介護予防	生活支援サービス	計	
北区	1	1	2	・地域薬局の有志団体によるオンラインを活用した、サロン形式による健康相談および啓発を実施。 ・地域内にスーパーがなく買い物に困難な地域における移動販売の訪問場所の追加調整を実施。
都島区	13	1	14	・運動や熱中症予防啓発の地域新聞を作成し、地域の高齢者宅や食事サービスなどで配布。 ・地域住民による、子どもから高齢者まで参加できる食事会を開催（月1回1人800円 とも無料）。
福島区	7	0	7	・百歳体操未実施地域において、助言や情報提供等の支援を行い、百歳体操の実施。 ・地域住民による、文庫活動・食事回答等を通じて、子どもから高齢者まで参加できる居場所の提供。
此花区	1	2	3	・外出を自粛している高齢者に対し、地域ボランティアが、訪問で弁当を届け見守り活動を実施。 ・外出自粛が続く中、交流の場を確保し、感染予防の環境整備等を行い、「カフェ」を再開。
中央区	11	1	12	・自宅に閉じこもりがちな高齢者が外出のきっかけづくりのため、コミュニケーション麻雀を実施。 ・希望者を募り、地域の会館までお弁当を取りに来てもらい、安否確認を行う配食サービスを実施。
西区	7	0	7	・百歳体操後コーディネーターが脳トレを配付する安否確認や認知症予防に繋がる取組みを実施。 ・新型コロナにより休止中の取組みについて検討し、ぬり絵などの紙媒体を配架し、完成作品を掲示。
港区	5	2	7	・週に1回、区内の見守り協力事業者に依頼し、決まった場所で移動販売を実施。 ・未使用の会館を活用し、お年寄りや子どもの世代間交流を行うコミュニティ食堂の開催。
大正区	3	0	3	・地域のデイサービス未使用時間を活用し、漢字学習を行うサロンを開催。 ・会館近くの公園で誰でも自由に参加できるラジオ体操を実施。
天王寺区	2	0	2	・地域の配食時、区内在勤の理学療法士が、高齢者の身体の状況を聞き取り、ストレッチ指導を実施。 ・百歳体操に使用する機材の使い方説明会を実施し、包括・オレンジチームと認知症勉強会等を実施。
浪速区	1	0	1	・換気の都合により、実施ができていなかった百歳体操を地域の会館を使用することで実施。
西淀川区	4	1	5	・企業と連携し、地域住民が交流ができるよう、地域の会館前などを販売場所とし移動販売を実施。 ・区内各所に5つのクイズを掲示し、高齢者が歩いて、クイズに答えるクイズラリーを実施。
淀川区	2	0	2	・コロナ禍においての活動方法を模索し、感染症対策を実施したうえで、運動教室を再開。
東淀川区	3	1	4	・地域と繋がりの少ない高齢者への情報発信（相談機関への早期連携）のため、コンビニに掲示板を設置。 ・地元商店とお年寄り見守り隊を中心に、移動販売を開催。
東成区	6	4	10	・地域福祉活動サポーター、包括支援センター、介護事業所、SCが銭湯等にて出張相談を開催。 ・企業と連携し、地域内にスーパーがなく買い物に困難な地域において移動販売を実施。
生野区	12	3	15	・各地域の見守り活動や助け合い活動の現状を発表してもらうボランティア交流会をオンライン開催。 ・福祉コーディネーター、地域ボランティアの協力のもと、マフ作成リーダー育成のための講習会実施。
旭区	8	1	9	・企業と連携し、地域内にスーパーがなく買い物に困難な地域において移動販売を実施。 ・地域のお寺にて茶話会を実施。必要に応じて専門職による簡単な体操、情報発信、相談を実施。
城東区	5	1	6	・企業と連携し、地域内にスーパーがなく買い物に困難な地域において移動販売を実施。 ・憩いの家やグラウンドを活用し、ラジオ体操を実施。また、体操終了後、脳トレのプリントを配付。
鶴見区	8	2	10	・企業と連携し、地域内にスーパーがなく買い物に困難な地域において移動販売を実施。 ・サロン参加者などにアンケート調査を実施し、SNSに関する体験会・ボランティア養成講座を実施。
阿倍野区	8	0	8	・新型コロナに関して他地域の情報を提供し、対策内容を協議したうえで、会館での百歳体操の実施。
住之江区	10	0	10	・新型コロナの影響でカフェ活動できない期間が続く中、今後の検討を行うため、定例会議を開催。 ・居場所づくりと見守り活動の視点から、会館集会所を活用した体操教室、ツボ押し講座の実施。
住吉区	6	0	6	・老人福祉センター等と連携し講師を決め、区在宅サービスセンターにて書道教室を実施。 ・感染予防についての情報提供やチラシの作成においてサポートを行い、会館で「ゆびあみ教室」を開催。
東住吉区	10	0	10	・衛生内容や参加者の把握方法等の助言を行い、新型コロナ影響により休止していた「喫茶」を再開。 ・感染防止対策が容易な会館を利用し、人数制限や内容を見直し、安全に活動ができる取組を再開。
平野区	5	4	9	・企業と連携し、施設入居者等の買い物に困難な住民のため、施設や集会所のスペースで訪問販売を実施。 ・企業と連携し、神社での薬膳弁当の配付。配付に併せてフレイル予防体操、薬膳についての講義を実施。
西成区	7	2	9	・毎日開催している親子食堂に併設し、地域の高齢者が安価で顔の見える関係で配食サービスを実施。 ・介護保険事業所が主体となり、健康チェック・脳トレなどの独自メニューも付加した百歳体操を開催。
合計	145	26	171	

区名	包括圏域	参加した地域ケア会議の種別(参加回数)					区域(計)	各区地域ケア推進会議
		個別ケース検討	事例検証 ふり返し	見えてき課題 のまとめ	自立支援型 検討会議	包括圏域 (計)		
北区	北区	0	0	1	0	1	3	×
	大淀	0	0	2	0	2		
都島区	都島区	0	0	0	6	6	6	○
	都島区北部	0	0	0	0	0		
福島区	福島区	0	0	1	7	8	8	×
此花区	此花区	0	0	2	0	2	5	×
	此花区南西部	0	0	3	0	3		
中央区	中央区	0	2	2	5	9	18	×
	中央区北部	0	2	2	5	9		
西区	西区	0	0	0	1	1	1	×
港区	港区	2	0	1	0	3	4	×
	港区南部	1	0	0	0	1		
大正区	大正区	0	0	1	1	2	3	○
	大正区北部	0	0	1	0	1		
天王寺区	天王寺区	0	2	0	0	2	2	×
浪速区	浪速区	0	0	3	6	9	9	×
西淀川区	西淀川区	0	0	5	4	9	14	×
	西淀川区南西部	0	1	3	1	5		
淀川区	淀川区	2	0	0	1	3	5	×
	淀川区東部	0	0	0	0	0		
	淀川区西部	0	0	0	0	0		
	淀川区南部	0	0	0	2	2		
東淀川区	東淀川区	0	1	1	0	2	7	○
	東淀川区北部	0	1	1	0	2		
	東淀川区南西部	0	1	0	0	1		
	東淀川区中部	0	1	1	0	2		
東成区	東成区南部	0	0	0	3	3	7	○
	東成区北部	0	1	1	2	4		
生野区	生野区	0	1	0	1	2	5	○
	東生野	0	0	1	0	1		
	鶴橋	0	0	0	0	0		
	巽	0	0	1	1	2		
旭区	旭区	0	0	1	0	1	4	×
	旭区西部	0	0	1	0	1		
	旭区東部	0	0	2	0	2		
城東区	城東区	1	0	1	1	3	6	×
	城東・放出	0	0	1	0	1		
	城陽	0	1	0	0	1		
	董・鯉江東	0	0	1	0	1		
鶴見区	鶴見区	0	0	0	0	0	5	×
	鶴見区西部	0	1	0	4	5		
	鶴見区南部	0	0	0	0	0		
阿倍野区	阿倍野区	0	0	12	0	12	24	×
	阿倍野区北部	0	0	1	0	1		
	阿倍野区中部	0	0	11	0	11		
住之江区	住之江区	0	0	0	0	0	1	×
	さきしま	0	0	1	0	1		
	安立・敷津浦	0	0	0	0	0		
	加賀屋・粉浜	0	0	0	0	0		
住吉区	住吉区	0	1	1	4	6	13	○
	住吉区北	0	0	1	2	3		
	住吉区東	0	0	2	0	2		
	住吉区西	0	0	1	1	2		
東住吉区	東住吉区	0	4	0	1	5	12	×
	矢田	5	0	1	0	6		
	中野	0	0	1	0	1		
	東住吉北	0	0	0	0	0		
平野区	平野区	0	0	1	0	1	5	○
	加美	0	0	1	0	1		
	長吉	1	0	0	0	1		
	瓜破	0	0	1	0	1		
	喜連	0	0	1	0	1		
西成区	西成区	0	0	1	1	2	12	○
	玉出	0	0	0	1	1		
	西成区北西部	0	1	2	1	4		
	西成区東部	0	0	3	2	5		
	合計	12	21	82	64	179	179	8

厚生労働省大臣 最優秀賞

事業者名等	毛馬コーポゆうゆうクラブ	自治体名	大阪府大阪市	分野	介護予防・高齢者生活支援
-------	--------------	------	--------	----	--------------

取組タイトル	学び合い助け合う長屋型大規模マンション				
--------	---------------------	--	--	--	--

WEBサイト					
--------	--	--	--	--	--

【背景】

- ・住民の高齢率が62.5%。築40年以上（1970年代築）のマンション。総戸数198戸。
- ・独居高齢世帯が増加。（39世帯）
- ・住民それぞれが今後の生活や介護、医療に不安を抱えている。

【経緯】

- ・数名の住民が上記の課題を解決するために活動を立ち上げる。初めに住民が集えるカフェをマンション集会室で開始。
- ・介護や医療の知識を学ぶために「在宅医療勉強会」を立ち上げる。そこで話し合いを繰り返した結果「有償ボランティアグループ」を立ち上げる。
- ・コロナ禍においても住民同士のつながりを絶やさないためにZoomを使った「在宅医療勉強会」を開始。

【取組内容】

担い手の思い

高齢率が高く、一人暮らし世帯が増える中で、将来に漠然とした不安を抱える住民が多い。「年をとっても明るく元気に楽しく暮らせるマンション」をつくりたい。

主な活動

「ちょっと楽しい 在宅医療勉強会」

自宅最後まで暮らすために欠かせない「医療」「介護」の知識を得るための勉強会。住民が今知りたいテーマを学ぶ場。レゴ®ブロックを使ったプレゼンテーション、闘病体験談など、参加者が自然と意見を出しやすい構成を心掛けている。

コロナ禍でも活動を継続するために、Zoom勉強会も開催中。

有償ボランティアグループ「お手伝いネット」(100円~/1回)

生活上のちょっとした困りごとを住民同士で助け合う仕組み。電球交換、包丁研ぎ、安否確認、リハビリの見守りなど。家具の移動など力仕事の依頼には、若い住民(10代)が担い手となることもある。

コーラスサークル

外出が困難になった住民の「歌を歌いたい」の声で始まった。マンション1階の集会室が会場なので、長距離の移動が困難な住民も参加できている。また、集会室までの移動に介助が必要な参加者には、他の参加者が手伝っている。

3つの特徴

1. 前例の少ない取り組みにも挑戦
「Zoomコロナ質問会」「Zoomお茶会」などこれまでの大切なつながりを絶やさない工夫に挑戦。また「レゴ®ブロックを使ったプレゼンテーション」などにも取り組む。
2. 担い手も参加者もシニア
自分のため、ご近所さんのために課題解決に取り組む。幅広いテーマで活動中。
3. 住民と専門職が一緒に運営
住民主体の取り組みを支えるために、看護師、ケアマネジャー、医師、生活支援コーディネーター（大阪市都島区社会福祉協議会）が支援。外部への発信や科学的根拠に基づいた情報の収集は主に専門職が担う。

【利用者の変化】

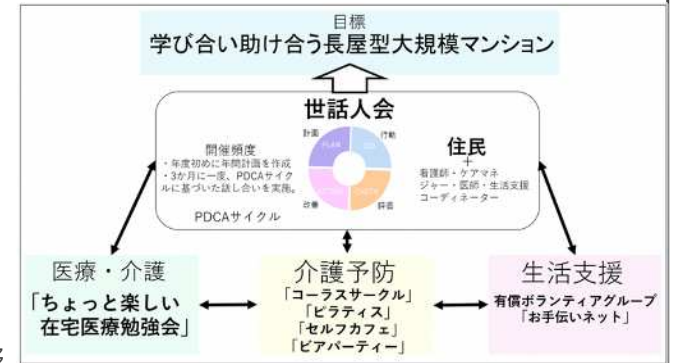
若い世代の参加が増加したケース

有償ボランティアグループ「お手伝いネット」に家具の移動の依頼があった時、世話人が高校生と大学生の兄弟（毛馬コーポ住民）に声をかけたところ快諾。

このように、少しずつではあるが若い世代にもゆうゆうクラブの活動が浸透し始めている。

男性参加者が増加したケース

男性参加者を増やす工夫として「持ち寄りビアパーティー」を開催。あまり活動に参加していない男性住民の参加があった。中には普段一人で食事をしている独居男性の姿も見られた。10歳代～40歳代の参加が十数名あり、シニア層住民と交流できた。



取組概要

厚生労働省老健局長 優良賞 団体部門

事業者名等	鶴見区シニアボランティア アグリ	自治体名	大阪府大阪市	分野	介護予防
-------	------------------	------	--------	----	------

取組タイトル	男性シニアボランティアグループがこども食堂等へ野菜を提供。さらに他分野でも特技を発揮中！
--------	--

WEBサイト	
--------	--

取組概要

【背景】

仕事中心の生活を送ってこられた男性の場合、退職を機に、「これからは、住み慣れた地域で社会参加していこう！」という思いがあっても、そのきっかけや居場所が鶴見区内には少ない状況にある。

【経緯】

男性の社会参加や居場所づくりには、きっかけや役割が重要であるため、鶴見区社協が『男性シニア共同菜園ボランティア講座』を開催。その修了生達が活動の継続を求め、ボランティアグループが誕生。年会費や助成金を財源に、手づくり野菜の提供活動を行なっている。

【取組内容】



【利用者の変化】

- ・定期的に活動する居場所が増えたことで、外出の機会もさらに増えている。(ホームセンターでの買い出しや、ボランティア仲間と誘い合っの釣りなど。)
- ・自分の健康だけでなくボランティア仲間にも声を掛けて一緒に休憩するなど、お互いの体を気遣い支え合っている。
- ・活動に最近参加していないボランティア仲間がいたら、自発的に電話連絡するなどして、お互いの見守り活動につながっている。
- ・活動者が増えてきて、体力的にも財源的にも余力が出てきたことで、使用する畑の面積を拡大し、栽培する野菜の種類や量を意欲的に増やしている。
- ・より多くの野菜を提供し「こども食堂など」へ社会貢献できるよう、ボランティア活動助成金の申請にも積極的にチャレンジしている。
- ・メンバーの中には自分の得意を活かし、「手作りおもちゃの提供活動」や「介護保険サービス外の有償ボランティア活動」にも参加し、社会的役割の幅を広げている。
- ・個人的にFacebookをしていたメンバーが、今では野菜づくり活動の様子もスマホで撮影し、定期的に情報発信されている。